



## 湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

### ～発行者からのお知らせ～

23年度から、Webサイト湘北SDGsを開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Webサイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。

今回の産学官連携企画  
関連サイトはこちら

すてない循環をつなごう  
R-LOOP 公式サイト



厚木市ウェブサイト



# 湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2025年度 第10号

(通算第36号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学

生活プロデュース学科・リベラルアーツセンター

〒243-8501 厚木市温水428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

## 【産学官連携】

### 衣料品等のリユース及びリサイクルの推進に関わる協定締結

(2026年3月16日)

2026年3月16日、厚木市、市内5大学、ブックオフコーポレーション株式会社が「衣料品等のリユース及びリサイクルの推進に関わる協定」を締結しました。

これは、ブックオフコーポレーション株式会社が運営するリユースボックス「R-LOOP」を市内公共施設及び市内5大学等に設置することにより、学生や市民の皆様へ「すてない」という新たなスタイルを提供するとともに、リユース及びリサイクルを推進し、循環型社会の推進を目指すものです。

また、この取組みは、リユース先であるマレーシアやカザフスタンなどの現地雇用にも繋がり、孤児院への支援や慈善団体への寄付等による社会貢献活動にも繋がっています。

協定式には、厚木市長をはじめ、ブックオフコーポレーション株式会社、株式会社BPLab、市内5大学の代表、厚木市スポーツ協会が参加し、R-LOOPのデモンストレーションなどを体験しました。



なお、本取組みの産学官3者協定は日本初となり、市内に5つの大学を有する厚木市ならではの協定となりました。

本学では段階的な導入を予定しており、2026年度は、湘北祭開催1カ月前～当日までR-LOOPを設置し、学生や教職員へ「資源の再利用」を意識してほしいと考えています。

### —「もう必要ないもの」が誰かを笑顔にする—

1人ひとりの小さな取組みを積み重ねて、循環型社会の推進を目指していきましょう。

※本学では、R-LOOPでの回収は雑貨のみとし、衣類の回収は、

(株)ベストトレーディング様にて引き続き実施する予定です。

(地域連携センター 高山明日香)

## 【授業紹介】 伝統の「糸」がつむぐ持続可能な未来：大貫繊維株式会社様による特別講義

(2026年1月19日)



生活プロデュース学科 1年生選択科目「SDGsと社会デザイン」の授業では、地元・愛川町半原に拠点を置く大貫繊維株式会社の豊島様、天利様、長谷川様をゲスト講師にお迎えしました。厚木市に隣接する愛川町半原は、古くから「撚糸（ねんし）」の町として知られています。講義では、ミシン糸が、衣類だけでなく、自動車のエアバッグや医療分野など、高い強度と信頼性が求められる幅広い分野で活躍していることを学びました。環境負荷低減への挑戦 アパレル業界は石油産業に次いで環境負荷が大きいとされる中、同社が進める具体的な SDGs アクションについても詳しくお話しいただきました。

1.リサイクル素材の活用：ペットボトルを再利用した再生ポリエステル糸の製造。

2.化学物質の管理：環境負荷を抑えるため、以前使用していたフッ素を不使用とするなど、製造工程の見直し。

3.ITによる効率化：コンピューターカラーマッチング（CCM）技術を活用し、人間の目では判別できないレベルで正確に調色を行うことで、無駄のないものづくりを実践。

講義後半で行われた「残糸」を活かしたワークショップでは、製造工程でどうしても発生してしまう「残糸（ざんし）」を活用したストラップ作りを実際に体験しました。色とりどりの糸を手に取りながら、学生たちは「本来捨てられるはずのものが、アイデア次第で素敵なアクセサリに変わる」というアップサイクルの楽しさを肌で感じていました。



講義を受けて感じたこと、考えたこと 講義を受けた

学生たちの振り返りからは、身近な「糸」への意識の変化や、企業の責任あるものづくりに対する驚きと共感が寄せられました。その一部を紹介します。

■ 糸の多様な役割と環境への意識：糸が衣類だけでなく、車の内装や工業用など幅広い分野で使われていると知り驚きました。アパレル業界が環境負荷の大きい産業である一方、リサイクル素材の活用など、環境を意識したものづくりの重要性を学びました。

■ 最新技術と伝統の融合に感動：糸の色管理に「コンピューターカラーマッチング（CCM）」という技術が使われ、人間の目では分からないレベルまで正確に判別していると聞き、驚きました。地元の愛川町半原に、これほどの歴史と技術があることを誇らしく思います。

■ 「残糸」を活かすアップサイクルの体験：製造工程で余る「残糸」を活用したアクセサリ作りを通じ、本来捨てられるはずのものがアイデア次第で価値あるものになる楽しさを知りました。身近なものを見直し、環境に良いものを選ぶ重要性を実感した授業でした。

■ BtoB 企業が担う社会的な責任：初めて BtoB 企業の詳しくなお話を伺い、一つの製品ができるまでの工程の多さと、糸に対する誠実な姿勢が伝わってきました。瞬時に爆発するエアバッグ用など、命に関わる場所を支える糸の強度の大切さも心に残っています。

■ 自分たちができる SDGs の第一歩：今まで気に留めていなかった糸を、とても身近に感じるようになりました。一人ひとりの意識を変えることが大きな社会貢献に繋がるという言葉通り、自分にできることから始めたいです。

本学では、これからも地域の企業様との連携を通じて身近なところから社会をデザインする視点を養っていきます。

(生活プロデュース学科 築瀬千詠)